

技術倫理総論（5年）の基礎・基本

1. 細項目数

	分類	A	B	C	細目数計
4年性（2単位）	技術者の在り方に関する理論的観点からの説明	3	1	1	5
	技術者の在り方に関する実地的観点からの説明	3	0	0	3
細目数計					

2. 分類とそれらの内容

分類	項目	細目	理解すべき内容	区分
技術者の在り方に関する理論的観点からの説明	科学技術史	科学技術と歴史	歴史的観点から、科学および技術者の在り方について理解する。	A
	科学技術と法	技術者の法的責任	事故事例などを通して、技術者が負う法的責任を理解する。	A
	科学哲学概論	科学理論における反証可能性	帰納法、仮説演繹法、およびポパーの反証可能性の意義を正しき理解する。	A
		科学理論におけるパラダイム	科学理論の飛躍的發展を説明する際のクーンの「パラダイム」の概念を理解する。	B
		科学理論におけるホーリズム	科学理論を支える基盤としての「信念」が複雑かつ日常的なものであることを理解する。	C
技術者の在り方に関する実地的観点からの説明	建設土木業務における技術者倫理	建設土木の現場における各種問題	建設土木の実務を通して、建設土木関係の技術者の正しい在り方を理解する。	A
	農業土木業務における技術者倫理	農業土木の現場における各種問題	農業土木の実務を通して、農業土木関係の技術者の正しい在り方を理解する。	A
	森林土木業務における技術者倫理	森林土木の現場における各種問題	森林土木の実務を通して、森林土木関係の技術者の正しい在り方を理解する。	A

保健体育の基礎基本

1. 細目数

	分類	A	B	C	細目数計
5年生 (男女) 1単位	基礎的な動き	3	0	0	3
	実技	115	50	13	178
	理論	14	5	0	19
細目数計		132	55	13	200

2. 分類とそれらの内容

分類	項目	細目	理解すべき内容	区分
基礎的な動き	スポーツテスト	運動能力テスト	・持久走(1500m)、50m走、立ち幅跳び、ハンドボール投げ	A
		体力診断テスト	・握力、上体起こし、長座体前屈、反復横とび	A
		診断と評価	・測定結果に基づく自己評価と診断方法	A
実技 (選択制)	ソフトボール	基本練習	・スローイング、キャッチング、ピッチング ・トスバッティング ・ハーフバッティング	A A A
		基本技能（攻撃）	・ダブルスチール（無死以外で得点が接近し、打者のカウントが不利な場合や捕手の弱肩、2塁手、遊撃手の動作が緩慢なとき行う）:走者1・2塁の場合 :走者1・3塁の場合	B
			・イバースystem（走者2塁の時、打者が3塁方向にバントすると見せかけ、3塁手を前につり出し2塁走者を盗塁させる攻撃法）:2塁から3塁への盗塁 :バントの構えからバットの戻し	B
		基本技能（守備）	・フレスヒット（バットを押し出すようにして1・2塁間から右翼方向へ打撃）	B
			・狙った場所へのバントヒット	B
			・ヒットエンドラン	A
			・バントエンドラン	A
			・ダブルスチールに対する守備 :走者1・2塁でのダブルスチールに対する守り方 :走者1・3塁でのダブルスチールに対する守り方	A A
			・イバースystemに対する守備	B
			・挟撃プレイ	A
			・走者がある場合のチーム守備（実戦場面を想定して） :走者1塁で左翼にシングルヒットが打たれた場合 :走者1塁で右翼にシングルヒットが打たれた場合 :走者1塁で左中間にロングヒットが打たれた場合 :走者2塁で右中間にシングルヒットが打たれた場合	B B B B
			・投手のピッチアウト	A
			・ヒットランプレイに対する守備	A
		ゲーム	・作戦をたてゲームを行う ・審判	A A

分類	項目	細目	理解すべき内容	区分		
実技 (選択制)	卓球	基本練習	<ul style="list-style-type: none"> <li>・フォアハンドスピートロング対ショート</li> <li>・フォアハンドスピートロング対フォアハンドスピートロング</li> <li>・フォアハンドスピートロング対カット</li> <li>・バックハンドスピートロング対サービス</li> <li>・バックハンドスピートロング対ショート</li> <li>・バックハンドスピートロング対フォアハンドスピートロング</li> <li>・スマッシュ</li> <li>・サービスとレシーブ</li> </ul>	A A A A A A A A		
		戦型	<ul style="list-style-type: none"> <li>・カット主戦型の戦い方 <ul style="list-style-type: none"> <li>:ラケットとラバー</li> <li>:フォアカットの打ち方</li> <li>:サービスの打ち方</li> </ul> </li> <li>:ガリップの基本</li> <li>:バックカットの打ち方</li> <li>:レシーブの打ち方</li> </ul>	A A A A		
		ゲーム	<ul style="list-style-type: none"> <li>・身につけたい6つのポイント <ul style="list-style-type: none"> <li>守備範囲を広くする</li> <li>スマッシュに強くなる</li> <li>緩急に強くなる一発の攻撃力をつける</li> <li>ストップをチャンスボールに</li> <li>常に打つ体制で</li> </ul> </li> <li>・前陣攻守型の戦い方:ショート主戦型</li> <li>:ツッツキ主戦型</li> <li>・個々人のプレイの特徴を生かした戦い方ができる</li> <li>・シングルスとダブルス</li> <li>・審判</li> </ul>	A A A A A		
		バドミントン	基本練習	<ul style="list-style-type: none"> <li>・規則的な動きの練習:ドローフット・ヘアピン・ロフ交互</li> <li>:スマッシュ・ドローフット・ロフ交互</li> <li>:ロフ・アット・ヘアピン</li> <li>:スマッシュ・アット・ヘアピン</li> <li>・不規則な動きの練習 :オールロング :オールショート</li> <li>・ロングサービス、ショートサービスの練習</li> <li>・各種フットの正確な打ち分け</li> <li>:ハイクリアー :ドリフンクリアー :ロフ</li> <li>:ウィップ :ドロフ :ドライブ</li> <li>:スマッシュ :フツシュ</li> </ul>	A B A A	
			ダブルスフォーメーションの理解と実践	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前後衛法（攻撃型）と横並び法（守備型）が最も基本的なもの</li> <li>・ローテーション法（2人とも右利きの場合時計の針の反対方向にローテイト）</li> <li>・インアントアウト法（一定の方向と限らず適時前後衛法と横並び法とを転換する）</li> </ul>	A B C	
			ゲーム	<ul style="list-style-type: none"> <li>・シングルスとダブルス（特にダブルスにおいてはインアントアウト法によるゲームができること）</li> </ul>	A	
			バスケットボール	連携的技術	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ゴール前2人のスクリーンからシュート（相互の位置の占め方、動き出すタイミングの使い方）</li> <li>・3人のスクリーンレイからのシュートと守り</li> <li>・バックコートのリバウンドキャッチから2人または3人が広がってランニングパスからシュートと守り</li> <li>・4:3ゴール前で短いパス、長い逆をつくパスを使ったパスワークと守り（ゾーンディフェンスに対する攻め）</li> </ul>	A A A A

分類	項目	細目	理解すべき内容	区分	
実技 (選択制)	バスケットボール	集団的チームプレイ	・ハーフコート、または、バックコートから三線のパスワークからの攻めと2人での守り	A	
			・マンツーマンディフェンス（攻撃側の位置や動き替えに対し、ボール保持に対しても非ボール保持者に対しても、ボールを中心として必要な協力防御の態勢を作り、ドリブルインのカバーや、スクリーンに対するスイッチなどを利用し、シュートされてもリバウンドに入ってボールを奪う機会が作れる）	B	
			・対人防御に対する攻撃では、良いバランスをとってスクリーンやパス後の動きかえをして、正面やサイドからポストなどを利用して有効なシュートチャンスが作れる。また、シャッフルとかローリングディフェンスなどを参考にし、自チームのメンバーの特長を生かしたチームプレイを作れる。	B	
			・2-3ゾーン、3-2ゾーンなど特長を生かしてパスワークを阻み動きかえて隙を作らない防御ができ、防御の外側からシュートさせてリバウンドボールを奪える。また、防御のリバウンドボールをとってからは、安全な速いパスアウト、三線への展開、パスワークプレイとリターンパスプレイによるシュートで攻めが組み立てられるようになる。	A	
			・ゾーン防御への攻撃では、オバランスで、短いパス、長いパスを逆をついたりして回しかえ、パスワークプレイとフェイントドリブルなどで有効なシュートチャンスを作る。	B	
	ゲーム	・相手との関係場面に応じ、組織だった適切な連携プレイを使い、プレイヤーの特長も生かしたゲームができる	B		
		・審判	A		
		バレーボール	基本練習	パス :オーバーハンドパス :アンダーハンドパス	A
				トス :直上トス :ネット際からのトス	A
				:ネット際でジャンプトス :ネット際からのバクトス	A
:アタックエリア後方からのトス（二段トス）	B				
:ネットプレイからのトス	B				
ブロッキング :ブロッキングのタイミング :スパイクのコースを防ぐ	C				
:トスに対する読み :次の動作への連係	C				
:ブロッキングの構えとジャンプ :手の出し方	B				
:ブロッキングの基本的な動き	A				
サーブ :アンダーハンドサーブ	A				
:テニス式フロッターサーブ	A				
:オーバーハンドのフロッターサーブ	A				
:オーバーハンドのドライブサーブ	B				
:逆回転サーブ	C				
:ジャンピングサーブ	C				
スパイク:直上トスからのスパイク	A				
:オープントスのスパイク	A				
:コート後方からのトスのスパイク	B				
:速攻(クイックスパイク)	B				
・サーブレシーブフォーメーション	サーブレシーブの基本隊形:セッターが後衛の場合	A			
:セッターが前衛の場合	A				
サーブレシーブの応用隊形:クイックと時間差攻撃をしやすくするサーブレシーブフォーメーション	C				
:ジャンプサーブのサーブレシーブ	B				

分類	項目	細目	理解すべき内容	区分
実技 (選択制)	バレーボール	・アタックレシーブ フォーメーション	:サブレシーブの下手な選手をかばうフォーメーション、及びバックアタックをさせる選手をかばう場合	B
			:2人の上手な選手に多くサブレシーブをさせるフォーメーション	B
			アタックレシーブの基本隊形:左側からの攻撃に対して	A
			:センターからの攻撃に対して	A
			:右側からの攻撃に対して	A
			アタックレシーブの応用隊形:セッターが後衛で3人のアタッカーがAクイック、時間差、左平行トスをそれぞれ打ってくる際の守備隊形の変化	B
			:セッターが前衛の場合で、バックアタック	B
			:左、右に前衛3人でブロックする	B
			ブロックフォロの基本隊形:左攻撃の場合のブロックフォロ	A
			:センター攻撃の場合のブロックフォロ	A
	:右攻撃の場合のブロックフォロ	A		
	ブロックフォロの応用隊形:Aクイックから右、または左の攻撃に対するフォロ	C		
	:Aクイックと右側の選手が時間差に入る場合のフォロ	C		
	・基本的なチーム構成  ゲーム	一人セッターの場合:セッターが前衛の場合	A	
		:セッターが後衛の場合	B	
		2人セッターの場合:サブレシーブ0・6システムの場合	B	
		:サブレシーブ1・5システムの場合	B	
		アウト攻撃、二段攻撃、三段攻撃	A	
		メンバーの身体的特性やプレイの特徴を考え、戦術的な意図を持って高いレベルのゲームを目指す。	A	
		審判	A	
ゲーム戦術		・動きを多く取り入れ、フットワークをより軽快にし、ショットは力強く正確に打てるようになる。	A	
基礎技能		・前衛・後衛の役割を理解し、チームとしてまとまりのあるプレイ(コンビネーションプレイ)が出せるようになる	A	
		・グラントストローク:動きを少なくして、単純な練習ではあるが、一本、一本を大切に打球	A	
	:攻撃的なシュートボールの練習、コースの打ち分け	A		
	:動きを多く入れてストロークの練習	A		
	:サービスレシーブからのグラントストロークの連続	A		
	・前衛練習:動きの少ないボレー、スマッシュ	A		
	:誘い込みのボレー	B		
	:フォア、バック、回り込みスマッシュ	A		
	:サービスレシーブからのボレー、スマッシュのバリエーション	A		
	サービス :フラットサービス :スライスサービス	B		
試合形式での練習  ゲーム	・ロビングを効果的に使う	A		
	・前衛はモーションをかけて効果的なモーションを習得する	A		
	戦術的動きを激しくスピードにして	A		
	審判	A		

分類	項目	細目	理解すべき内容	区分	
実技 (選択制)	サッカー	基礎技術と複合練習	・パス:2人でのパス(横・斜め前のパス、横・縦のパス) :3人でのパス(ショート・ショート・ロングのパス、3人での直進的なパス)	A	
			・シュート:オープンからのセンターリングボールをシュート(キッカーもニア、ファーへ低く速い球、GKを越えるボールなど色々と実践を想定したボールを送る、点で合わせてゴールをねらう)	B	
		コンビネーションプレー	・オープンからの攻防:外側から攻撃側のオバーンンパ-で2対1、3対2の攻め守り	A	
			・センターからの中央攻撃:中央からトップ(FW)とMFがコンビネ-をとっての攻め守りの練習、DFのストップ-とスウィーパー-がカバーリングの連携をとる	A	
		リスタートからの攻撃	・フリーキック	A	
		守備戦術の理解	・通常プレーでの守備:マンツーマンディフェンス :ゾーンディフェンス :コンビネーションディフェンス	A A B	
			・リスタートからの守備(セットプレー):フリーキック時の守備 :コーナーキック時の守備 :スローインの時の守備	B B B	
			・特別なゲーム戦術としての守備:プレスディフェンス :守備的戦術 :オフサイドトラップ	C B C	
		ゲーム	・チームのメンバーの特徴を考えて作戦を考え、チームスタイルを共通理解して高いレベルのゲームに挑戦する	B	
			・審判	A	
	ゴルフ	基本ルール	・エチケットとマナーの確認	・素振りにはまわりに十分に注意して行う ・人のショットは安全な位置で静かに見守る ・歩行はできるだけ速く ・ボール探しやプレーの遅延で他に迷惑をかけるようなら後続組をパス	A A A A
				・自分の実力を考えてプレイする	A
				・切り取った芝は元に戻しておく	A
				・ティグラウンドの範囲	A
				・空振りでも一打は一打	A
		スイングの基本の復習		・OBになりそうときは暫定球を打つ	A
				・ホールから遠い順にショットする	A
				・OBの判定は正確に行う	A
				・ドロップは肩の高さに腕を伸ばして行う	A
				・打てないと判断したらアンプレアブルを宣言	A
ゴルフトレーニング ショートホール(150ヤード以下)を作った実践		・クラブの握り方	A		
		・足の位置	A		
		・構え方	A		
		・クラブの上げ方	A		
		・バックスイングの頂点	A		
	・クラブの振り下ろし	A			
	・打球の瞬間	A			
	・クラブの振り抜き方	A			
	・スイングの終了	A			
	・素振りとストレッチは特に有効なトレーニング	A			
	・3人、4人ペアにより簡易ゴルフマッチを楽しむ	A			

分類	項目	細目	理解すべき内容	区分		
実技 (選択制)	テニス	サービス	・コンチネンタル・グリップでのサービスの習熟（数多く練習） ・スライス・サービス(カーブをかけるサービス):インパクトをフラットよりやや後ろにする ・スピンサービス（強い回転の順回転をかけるサービス）	A B C		
		フットワーク	・左右へのフットワーク ・前後へのフットワーク ・オープンとスクエアのフットワーク	A A A		
		7°ロチショット	・「迷わずにネットダッシュ」が原則 ・スライスで相手コートに深く打つ	A B		
		攻撃戦略と防御	・サーブ & ボレー(サーブを打つと同時に、素早くネットに向かってダッシュし、相手のリターンをボレーで決める戦法) :リターンミスを引き出す、ファーストサーブを狙う :トスを20センチ前に上げ倒れ込むようにしてダッシュ :ネット・ダッシュしたらスプリット・ステップ :ファースト（最初の）・ボレーはコースより深さが大切 :足元のボールはセンターに遠いボールはストレートに ストローク・ラリー:深さが大切。サービスラインとラインの中間に返す :2倍の高さのネットを想像して高いボールを打つ リカバーは想像できるリターン・コースのセンター :クロスにクロスにひたすらクロスに :ラリーのリズムを変えて相手のタイミングを狂わす :弱く甘いコースのセカンド・サービスをスライスかフラットで打つ :ライジングでたたくとネットに素早くつける :スピードの遅い深いボールをバックサイドにリターン ・ボレーでポイントを奪う（雁行陣の後ろで守っているプレイヤーがラリーをしているボールを、ネット・プレイヤーが横取りしてボレーする）:失敗をおそれることはない :サーブにサインを送り確実にボレーを成功させる :ボレーの失敗をおそれるな、ボレーにでない方が罪が深い	A B B A A B A A B B C B C A A		
		基本技能	・ロブ:フラット :スライス :トップスピン ・バックハンド・ショット(パス) :ドロップショット:フォアとバック ・ハーフボレー:フォアとバック :アングルボレー:フォアとバック ・ゲラウンド・スマッシュ :ジャンピング・スマッシュ	A B B A		
		ゲーム	色々な高いレベルの技術、戦術でゲームができるように挑戦する 審判	A A		
		理論	AED使用法	AED	・AEDとは ・AEDの必要性和校内及び学校外に設置してある場所の確認 ・AEDの使用方法	A A A

分類	項目	細目	理解すべき内容	区分
理論	現代社会と健康	生活習慣病を考える	・ 疾病のメカニズムを探る	A
			・ 疾病と防衛体力	B
		人口動態	・ 生活習慣病の種類を把握し、予防に役立てる	A
			・ 我が国の生活習慣病の現状を真摯に受け止め、予防を心がける	A
			・ 現在の人口推移や増加率などを理解する	B
			・ 死亡率の年次推移と死因の年次推移	B
	少子化と高齢化社会	・ 年齢別人口の推移を理解し、高齢化社会の原因をさぐる	B	
		・ 少子化社会の問題点を考える	A	
		・ 高齢化社会の問題点を考える	A	
家族と結婚計画	日本の性の歴史	・ ヒトとヒト以外の動物の性を比較し、ヒトの性の特性を理解する	A	
		・ 明治時代、大正時代などの我が国の性の歴史をさぐる	B	
	結婚と健康	・ 結婚の意義をたたく理解する	A	
		・ 離婚率増加の背景を考える	A	
	家族計画	・ 家族計画の重要性とその目的を理解する	A	
・ 人工妊娠中絶の実態		A		
		・ 10代の性の実態	A	



## 英語 A の基礎・基本

### 1. 細目数

	分類	A	B	C	細目数計
5 年生（2 単位）	ライティング	13	9	5	27
細目数計		13	9	5	27

### 2. 分類とそれらの内容

分類	項目	細目	理解すべき内容	区分
工業英語	Eメール	技術文書における数字関連のルール	技術文書における数字関連の表記ルールを理解することができる。	A
		Eメールの形式	Eメールの形式・構造を理解できる。	A
	新製品 広告	語彙の特徴	新製品広告の語彙の特徴を理解できる。	A
		構文の特徴	新製品広告の構文の特徴を理解できる。	A
	カタログ	カタログの見方	カタログの見方を理解できる。	A
		名詞の複合語	商品情報を効果的に伝えるために多用される名詞の複合語の語法を理解できる。	B
		注文書の形式と書き方	注文書（order form）の形式と書き方を理解できる。	B
	仕様書	単位記号	仕様書に多用されるさまざまな単位記号を書くことができる。	A
		句読点	句読点のコロン（:）とセミコロン（;）の違いを理解し、使用することができる。	B
		仕様書の読み取り方	仕様書の概要を把握し、データの詳細を読み取ることができる。	C
	操作 マニュアル	操作マニュアル	操作マニュアルの表現ルールを理解することができる。	A
		do-it-yourself の考え方	操作マニュアルを通して、アメリカ人の do-it-yourself の考え方を認識することができる。	C
	求人広告	情報	求人広告にはどんな情報が含まれているのか理解することができる。	A
		問い合わせの仕方	電話や Eメールで求人広告の内容について問い合わせをする際の丁寧文や敬語表現の使い方を理解し、簡単な問い合わせをすることができる。	B
	ビジネス レター	形式	ビジネスレターの形式を理解することができる。	A
		段落構成	ビジネスレターの段落構成を理解することができる。	C

プレゼンテーション	スライドの作成	プレゼンテーションの流れを理解し、スライドの原稿を作成することができる。	A
	プレゼンテーションの実演	プレゼンテーションのスライドに沿って、簡単な実演をすることができる。	B
解説書・ホームページ	定義文	科学技術の解説書やホームページによく見かける「定義文」を理解することができる。	B
	英英辞典	英語を外国語として学習する人のために特別に編纂された学習英英辞典の使い方に慣れることができる。	C
実験報告書	構成	実験報告書の構成（タイトル・目的・実験・結果・考察／結論）を理解することができる。	A
	動詞の時制の用法	実験報告書の動詞（過去時制）の用法を理解できる。	A
	受動態の用法	実験報告書の受動態の用法を理解できる。	B
	グラフの使用ルール	実験報告書の図表の使い方を理解できる。	B
	頻出語句・表現	実験報告書の考察・結論のセクションによく見られる形容詞・（接続）副詞・動詞を理解できる。	B
工業英検	出題内容	工業英検に出題される内容、構成を理解できる。	A
	工業英語の3C's	科学技術文書の3C'sについて理解することができる。	C

## ドイツ語 I・II の基礎基本

### 項目数

分類	科目名	A	B	C
分類(1) 発話意図	I	1 7	1 2	2 4
	II	1 3	2 5	1 5
分類(2) 言語行為	I	2	9	7
	II	7	7	4

### 分類(1) : 発話意図の観点から

項目	細目	区分	
		I	II
1. 自己紹介する	a. 名前・出身地・専門・年齢などの表し方	A	B
	b. (2人の会話で) Siezen の質問とその答え方(疑問文の語順)	A	B
	c. (2人の会話で) ich、Sie での動詞の現在人称変化	A	B
	d. (3人以上の会話で) 3人称単数の動詞の現在人称変化	A	B
	e. (3人以上の会話で) 主語が複数での動詞の現在人称変化	A	B
2. 親しみをこめる	a. duzen での挨拶、Siezen での挨拶	A	A
	b. du、ihr の動詞現在人称変化	A	B
	c. 不規則な現在人称変化の動詞	B	A
	d. 相手を誘う表現：定動詞 1位+wir	B	A
	e. 相手を誘う表現：Haben Sie Lust, ... zu Inf.	C	C
3. 命令する・要求する	a. duzen での命令、Siezen での命令	A	A
	b. 話法の助動詞 müssen, sollen	B	A
	c. 二人称を主語にした要求の文	B	B
	d. 名詞+bitte	A	A
4. 自由な語順で表現する	a. 定動詞二位	A	B
	b. 定動詞一位	A	C
	c. 定動詞後置と枠構造	C	B
5. 時・場所・頻度を定める	a. 名詞の格	A	C
	b. 前置詞と格支配	B	A
	c. 頻度の副詞：oft, manchmal, selten など	B	C
	d. 場所の副詞：an, auf, vor, hinter, neben, über など	B	C
	e. 時の副詞と時刻の表現	B	A
	f. 分離動詞	B	A
6. 願望を表す、許可を求める	a. 話法の助動詞 möchte	A	B
	b. 話法の助動詞 können, dürfen の疑問文	C	B

7. 意志を明示する	a. 話法の助動詞 wollen	B	B
	b. ich を主語にした現在時制の文で意思を表す	A	B
	c. 否定 : nicht, kein, ja, nein, doch	A	A
8. 自らの見解を述べる	a. ich finde, ich meine, ich glaube	B	A
	b. dass を用いた副文章	C	B
	c. 形容詞の語尾変化	C	B
9. 説明を補足する	a. 目的について : damit... / um...zu Inf.	C	B
	b. 理由について : weil... / denn... / wegen...	C	B
	c. ある名詞についての情報を補足 : 関係詞	C	C
10. 物(無生物)を主語に使う	a. 受動	C	B
	b. 受動・可能の意味を含む表現 : sein+zu Inf. / sich lassen + Inf. / -bar	C	C
11. 作業の終了・完成	a. 動詞の三基本形	C	B
	b. 動詞の過去人称変化と過去時制の用法	C	B
12. 判断・可能性を示す	a. 話法の助動詞 können, dürfen による可能性の表現	C	B
	b. 話法の助動詞 müssen による必然性の表現	C	B
	c. 副詞 sicher, bestimmt, wahrscheinlich, wohl, vielleicht	C	A
13. 経験したことを報告する	a. 体験報告 : sein 動詞の過去 war	C	B
	b. 体験報告 : 完了時制	C	B
	c. 伝聞 : sagen+dass...	C	C
	d. 伝聞 : 接続法 I 式 sei, würde, hätte...	C	C
14. 比べる	a. 同等比較	C	C
	b. 比較級	C	C
	c. 最上級	C	C
	d. wie を用いた比喻	C	C
15. 将来の夢を語る、警告する、後悔する、残念がる	a. 接続法 II 式	C	C
	b. Es ist mir schade... / Es tut mir leid ...	B	A
16. 数を表す	a. 数詞	A	B
	b. 名詞の複数形の作り方と複数の格変化	A	C

分類(2) : 言語行為の能力訓練という観点から

項目	細目	区分		
		I	II	
a. 話す	1. 意思・要求を伝える	a. 単純な文	A	A
		b. 単純な文+副詞(句)	B	A
		c. 副文・不定詞(句)	C	B
	2. 客観的状況を説明する	a. 単純な文	B	A
		b. 単純な文+副詞(句)	C	B
		c. 副文・不定詞(句)	C	C
	3. 話者個人の考え・個性・経験を伝える	a. 単純な文	B	A
		b. 単純な文+副詞(句)	C	B
		c. 副文・不定詞(句)	C	B

b. 聞く	1. 話題が何かを聞き取る		A	A	
	2. 指定された特定の語(句)を聞き取る		B	A	
	3. 特定の情報を聞き取る		B	B	
	4. 聞き取ったことを文字にする		B	A	
c. 読む	1. 何について書かれたテキストかを即時に理解する		B	C	
	2. 特定の情報を拾い読みで読み取る		B	C	
	3. テキストの一部を別の文に書き換える	a. 語句の変更		C	B
		b. 文構造の変更		B	B
	4. テキスト全体の要約文を作る		C	C	

## 韓国語Ⅱ の基礎・基本

1. 細目	分類	A	B	C	細目数計
5学年 (2単位)	基本	22	0	0	22
	応用	10	5	2	17
細目数計		32	5	2	39

### 2. 分類とそれらの内容

1/2

分類	項目	細目	理解すべき内容	区分
基本	オリエンテーション	基本子音	ハングルの基本子音を理解し、文字の組み立てができ、正確に用いることができる。	A
		母音	ハングルの母音を理解し、文字の組み立てができ、正確に用いることができる。	A
		二重母音	ハングルの二重母音を理解し、文字の組み立てができ、正確に用いることができる。	A
	ハングルのまとめ	発音変化の理解	発音の変化を理解し、文章の中の発音がうまくなる。	A
	합니다体 (1)	活用	かしこまった言い方である합니다体を理解し、正しい表現をすることができる。	A
	합니다体 (2)	作り方	합니다体の作り方が理解でき、正しい文章を書くことができる。	A
		活用法	합니다体の活用法が理解でき、適切な表現をすることができる。	A
	합니다体の否定形 (1)	否定形	합니다体の否定形の作り方を理解することができる。	A
		作り方	합니다体の否定形の表現が理解でき、正しい文章を書くことができる。	A
	합니다体の否定形 (2)	場面に合う使い方	場面に合う否定形の使い方が理解でき、適切な表現をすることができる。	A
	해요体 (1)	作り方	해요体の作り方が理解でき、正しい文章を書くことができる。	A
		活用法	해요体の活用法が理解でき、正しい表現をすることができる。	A
	해요体 (2)	表現	うちとけた言い方である해요体の表現が理解でき、的確に用いることができる。	A
	해요体の否定形 (1)	作り方	해요体の否定形の作り方を理解することができる。正しい文章を書くことができる。	A
		表現	해요体の否定形の表現が理解でき、的確に用いることができる。	A
	해요体の否定形 (2)	使い方	해요体の場面に合う否定形の使い方が理解でき、正しい表現をすることができる。	A
		会話	해요体の場面に合う否定形の会話が理解でき、正しい表現をすることができる。	A
	過去形	합니다体	합니다体の過去形の作り方や表現を理解でき、正しい文章を書くことができる。	A
		해요体	해요体の過去形の作り方や表現を理解でき、正しい文章を書くことができる。	A
	過去否定形 (1)	합니다体	합니다体の過去否定形の作り方を理解でき、正しい表現をすることができる。	A
해요体		해요体の過去否定形の作り方ができ、正しい表現をすることができる。	A	
過去形の否定形 (2)	頻度・程度表現	否定形と共に頻度・程度を表す表現が理解でき、正しい文章を書くことができる。	A	

分類	項目	細目	理解すべき内容	区分
応用	進行形	作り方	動詞の進行形の作り方が理解でき、正しい文章を書くことができる。	A
		活用法	動詞の進行形の活用法が理解でき、正しい表現をすることができる。	A
	数詞と助数詞	漢数詞	漢数詞を使った表現を理解でき、正しい表現をすることができる。	A
	漢数詞と固有数詞	使い分けと活用	固有数詞と漢数詞の使い分けと数字を理解することができ、文章中で活用することができる。	A
	可能・不可能の表現	해요体の作り方	動詞の可能、不可能の表現ができ、正しい文章を書くことができる。	A
	願望の表現	願望の表現	～したい、してみたいなどの願望の表現ができ、正しい文章を書くことができる。	A
	接続語尾（1）	接続語尾（1）	文章の構造を理解し、短文2つ以上を繋げて表現することができる。	B
	～て、～だが等の表現	順接の表現	順接の表現が理解でき、正確に用いることができる。	A
		逆接の表現	逆接の表現が理解でき、正確に用いることができる。	A
	接続語尾（2）	接続語尾（2）	文章を繋げて好みの表現等ができる。	B
	接続語尾（3）	接続語尾（3）	韓国語で～て、くて、のでなどの原因による結果の表現を理解し、正確に用いることができる。	A
	接続語尾（4）	接続語尾（4）	理由、前提動作の表現が理解でき、正確に用いることができる。	B
	義務、当然の表現	義務、当然の表現	～しなければならない、～べきだ、～てもよいの韓国語の表現が理解でき、正しい文章をつくることができる。	B
	動詞の連用形	動詞の連用形	動詞2つ以上を繋げて言う表現が理解でき、正確に用いることができる。	B
	敬語	敬語	目上の人に対して使う表現が理解でき、正確に用いることができる。	C
	バンマル（駄目語）	バンマル（駄目語）	歳の近い人同士で使う表現が理解でき、正確に用いることができる。	C
自由会話	自由会話	2人で1つのグループを組んで主題を決めて自由会話をすることができる。	A	

## 中国語Ⅱの基礎・基本

### 1. 細目数

分類	項目	A	B	C	細目数計
中国語Ⅱ	文の組み立て	4	5	0	9
	時態表現	3	2	0	5
	方向補語	2	0	0	2
	可能補語	1	1	0	2
	さまざまな表現	0	0	2	2
	存在表現	0	0	2	2
細目数計		10	8	4	22

### 2. 項目とそれらの内容

分類	項目	細目	理解すべき内容	区分
	文の組み立て	動詞述語文	動詞述語文を理解し、正しく使用できる。	A
		動詞	動詞を理解し、正しく使用できる。	A
		形容詞述語文	形容詞述語文を理解し、正しく使用できる。	A
		形容詞	形容詞を理解し、正しく使用できる。	A
		疑問文Ⅰ	程度を尋ねる疑問詞の組み合わせを理解し、正しく使用できる。	B
		疑問文Ⅱ	状態や方法・様子や理由などの疑問詞を理解し、正しく使用できる。	B
		疑問文Ⅲ	打消しの語と一緒に用いる場合の疑問詞を理解し、正しく使用できる。	B
		程度副詞と形容詞	程度副詞と形容詞との組み合わせを理解し、正しく使用できる。	B
		否定の形容詞と程度副詞	否定の形容詞と程度副詞を理解し、正しく使用できる。	B
		過去完了型	過去完了型を理解し、正しく使用できる。	A
		動量詞	動量詞について理解し、正しく使用できる。	A
		肯定文	肯定文の表現を理解し、正しく使用できる。	B



中国語Ⅱ (続き)	時態表現 (続き)	否定文	否定文の表現を理解し、正しく使用できる。	B
		持続進行と形容詞述語文	持続進行と形容詞述語文との組み合わせを理解し、正しく使用することができる。	A
	方向補語	単純方向補語	単純方向補語を理解し、正しく使用することができる。	A
		複合方向補語	複合方向補語を理解し、正しく使用することができる。	A
	可能補語	可能の助動詞との使い分け	可能の助動詞との使い分けを理解し、正しく使用することができる。	A
		可能の助動詞との関連表現	可能の助動詞との関連表現を理解し、正しく使用することができる。	B
	さまざまな表現	疑問文	疑問文を理解し、正しく使用することができる。	C
		反復疑問文	反復疑問文を理解し、正しく使用することができる。	C
	存在表現	さまざまな存在表現	さまざまな存在表現を理解し、正しく使用することができる。	C
		否定の存在表現	否定の存在表現を理解し、正しく使用することができる。	C

## 英語 B の基礎・基本

### 1. 細目数

	分類	A	B	C	細目数計
5 年生（1 単位）	語 彙	1	1	1	4
	リスニング	1	1	1	4
	文 法	1	1	1	4
	リーディング	1	1	1	4
細目数計		4	4	4	16

### 2. 分類とそれらの内容

分類	項目	細目	理解すべき内容	区分
語彙	語彙	語彙（1）	中学から高専低学年に学習する単語の意味を理解できる。	A
		語彙（2）	高専レベルで学習する単語の意味を理解できる。	B
		語彙（3）	大学以上及び実務者レベル以上の単語の意味を理解できる。	C
リスニング	リスニング	リスニング（1）	中学から高専低学年に学習する内容を聞き取ることができる。	A
		リスニング（2）	高専レベルで学習する内容を聞き取ることができる。	B
		リスニング（3）	大学以上及び実務者レベル以上で学習する内容を理解できる。	C
文法	文法	文法（1）	中学から高専低学年に学習する文法事項を理解、運用することができる。	A
		文法（2）	高専レベルで学習する文法事項を理解、運用することができる。	B
		文法（3）	大学以上及び実務者レベル以上で学習する文法事項を理解、運用することができる。	C
リーディング	リーディング	リーディング（1）	中学から高専低学年に学習する内容を読解することができる。	A
		リーディング（2）	高専レベルで学習する内容を読解することができる。	B
		リーディング（3）	大学以上及び実務者レベル以上で学習する内容を読解することができる。	C

## 法 学 I の基礎・基本

### 1. 基礎・基本の項目数

	分類	A	B	C	項目数計
5 学年 (2 単位)	法	8	2	0	10
	憲法	5	8	3	16
	民法	16	13	11	40
	刑法	3	1	3	7
	社会生活 関係法	0	0	9	9
	科学技術 関係法	0	0	10	10
	国際法	0	0	7	7
	民事手続 法	2	2	3	7
項目数計		34	26	46	106

2. 項目とそれらの内容

分類	項目	細目	理解すべき内容	区分	
法	法とは何か	法と法律	「法」と「法律」の違いを理解する	A	
		法と正義	自然法論と法実証主義との対立を理解し、正義とは何かを考える	B	
		法とその他の社会規範	法とその他の社会規範である、道徳、宗教、慣習との相違点を理解したうえで、法の強制規範性を理解する	A	
		法の体系と分類	成文法間の抵触に関する原則を理解し、公法と私法、実体法と手続法、民事法と刑事法、国内法と国際法、強行法と任意法に分類し、それぞれの違いを学習する。	A	
		法源	法源とは何かを理解した上で、成文法の種類と不文法の種類を概観する	A	
	権利義務	権利義務の意義	法律関係とは何か、権利および義務とは何かを理解する。	A	
		権利の種類	公権、私権、社会権を理解する	A	
		権利行使とその制限	近代市民法原理を通して、民法1条の規定を題材に権利行使の限界を理解する。	A	
	法の適用と解釈	法の適用	法適用の意義を理解し、事実の確定、法の発見と当てはめを学習する。また、民事裁判における証拠裁判主義、弁論主義、自由心証主義といった一般原則、事実の推定と擬制についても理解する。	B	
		法の解釈	法解釈の意義および必要性を踏まえ、法解釈の種類と方法をそれぞれ理解する。	A	
	憲法	憲法の意義	立憲主義	近代立憲主義を理解し、近代憲法とは何かを学習する	B
			日本国憲法の制定過程	日本国憲法の制定過程を概観し、明治憲法との比較および日本国憲法制定についての問題点（憲法の自律性の問題、民定憲法性）を考える。	B
		人権総論	人権の観念と分類	自然権思想を理解し、人権の分類を学習する。	B
人権共有主体性			外国人、法人の人権享有主体性について、主張されている学説を理解し、判例の見解の妥当性を検討する。	A	
人権規定の私人間効力			人権規定の適用範囲としての私人間への適用問題について、直接適用説、間接適用説の違いを理解し、それぞれの妥当性を検討する	B	

分類	項目	細目	理解すべき内容	区分
	包括的人権	平等権	尊属殺重罰規定違憲判決、非嫡出子相続分差別合憲判決などの判例を通して、平等権の意義、差別的取扱の合憲性審査基準を検討する。	A
		新しく主張されている人権	「宴のあと」事件東京地裁判決をとおして、プライバシー権の法的権利性を理解し、その侵害となる要件を考える。また、自己決定権の意義と根拠を理解し、校則問題等を通して、自己決定権の及ぶ範囲を考える。	B
精神的自由権		思想良心の自由	思想良心の自由が保障する権利内容を理解する。	A
		信教の自由	信教の自由が保障する権利内容を理解すると同時に、政教分離原則違反の審査基準として、津地鎮祭事件判決、愛媛玉串料訴訟事件に現われた目的効果基準を理解する。	A
		表現の自由	表現の自由を知る権利を中心に構成し、情報提供作用、情報受領作用、情報収集作用のそれぞれについて、その保障された権利内容を理解する。	A
経済的自由権		職業選択の自由	職業選択の自由が保障する権利の内容を理解し、積極目的規制および消極目的規制に対する合憲性判定基準を学習する。	B
		財産権の保障	財産権の保障する権利の内容を理解する。	B
社会権		生存権	判例を中心に、生存権規定の法的性質に関する学説を概観し、プログラム規定説の妥当性を考える。	B
		労働基本権	憲法の保障する労働基本権を理解した上で、特に公務員の労働基本権の制限についての判例の見解を検討する。	C
平和主義		憲法第9条の解釈	憲法第9条の解釈について、自衛隊の合憲性を取上げ、憲法学説と公定解釈の妥当性を検討する。	C
		平和主義を巡る裁判例	具体的事案として、長沼ナイキ訴訟、百里基地訴訟を通して、裁判所の採用する「統治行為論」を学習する。	C

分類	項目	細目	理解すべき内容	区分
民事法	民法総則	権利能力	民法上の人の概念、権利能力の始期および終期を学習する。	A
		行為能力	意思能力、行為能力の意義を理解し、行為無能力制度を学習する。	B
		物の概念	民法上の「物」の意義を学習し、動産および不動産、主物と従物、元物と果実の違いを理解する。	A
		法律行為	法律行為とは何かを理解し、法律行為の有効要件を学習する。	A
		意思表示	法律行為の要素である意思表示とは何かを理解し、意思の欠缺、瑕疵ある意思表示を具体例を通して、学習する。	A
		代理	民法の規定する代理制度を理解する。	B
		時効	取得時効および消滅時効の各制度を理解する。	B
	物権法	物権の意義と種類	物権の意義を理解し、民法に規定のある物権を分類する。	A
		物権法定主義	物権法定主義の意義を理解する。	A
		物権の効力	物権の効力として、優先的効力および物権的請求権を理解する。	A
		物権変動	物権変動の意義を理解した上で、公示・公信の原則、物権変動の時期を理解する	A
		物権変動の対抗要件	不動産物権変動の対抗要件および動産物権変動の対抗要件を理解する。	A
		占有権	占有の概念を理解し、仮の権利としての占有権と所有権の違い、占有権の効力としての占有訴権を理解する。	B
		所有権	所有権の意義を理解し、所有権の取得について理解する。	B
		用益物権	用益物権としての地上権、永小作権、地役権、入会権について、それぞれの意義および特徴を理解する。	C
		担保物権	法定担保物権と約定担保物権の違いを理解し、留置権、先取特権、質権、抵当権についてそれぞれの意義と特徴を理解する。	C
	債権法	債権の意義	債権の意義および種類を理解する。	A
		契約	契約とは何かを理解し、民法の定める典型契約のうち、特に売買契約の成立要件、売買に関する規定を学習する。	A

分類	項目	細目	理解すべき内容	区分
		債権の効力	債権の効力として、現実的履行の強制、債務不履行、同時履行の抗弁権、危険負担について学習する。	A
		債権の人的担保	債権の人的担保の手段としての、連帯債務および保証債務について理解する。	B
		債権の変動	債権の変動について、特に、債権の消滅事由としての弁済と相殺を理解する。	C
		事務管理・不当利得	法律の規定に基づいて発生する債権として、事務管理、不当利得について理解する。	C
		不法行為	不法行為の意義、成立要件、特殊な不法行為を理解する。	A
	家族法	家族法の意義と変遷	家族法の意義を理解し、明治憲法下における家族法と現行憲法下における家族法の違いを理解する。	C
		親族の範囲	民法725条の規定にしたがって、親族の範囲を理解する。	B
		戸籍	戸籍法の規定を参照し、戸籍制度の意義と戸籍の記載事項を理解する。	C
		婚姻と離婚	婚姻の成立要件と効果、離婚の要件と効果、現行婚姻制度の問題点を理解する。	A
		親子関係	親子の類型、認知制度、養子制度について理解する。	B
		扶養	扶養の意義を理解し、親族間の扶養義務について学習する。	C
		相続	相続の意義を理解し、法定相続および遺言相続について学習する。	B
	商行為法と企業法	企業と商法、商人の概念	企業社会における企業の意義と商法の意義、商人および商行為概念について理解する。	A
		会社の概念	会社の社団性、営利性、法人性を理解する。	B
		会社の種類	株式会社と持分会社についてそれぞれの会社の特徴を理解する。	A
		株式	株式会社の株式の意義を理解し、株式の自由譲渡性を理解する。	B
		株主	株主の意義、株主の権利義務を理解する。	B

分類	項目	細目	理解すべき内容	区分
		株式会社の機関	会社の機関としての株主総会、取締役、監査役の概要を理解する。	B
		手形・小切手	手形・小切手の経済的機能と構造を理解する。	C
	国際取引	国際取引の意義	国際取引の意義と法の抵触の問題を理解する	C
		国際売買契約	国連物品売買条約に基づき、売買契約の成立要件、売主および買主の権利義務を理解する。	C
		国際海上物品運送	国際海上物品運送法の適用範囲と、海上運送契約の種類、船荷証券の機能、海上運送人の責任を理解する。	C
刑事法	刑法	刑法の意義と基本原理	刑法の意義、刑法の基本原則としての罪刑法定主義、適法手続の保障を理解する。	A
		犯罪の成立要件	犯罪の意義を理解した上で、犯罪の成立要件としての構成要件該当性、違法性、有責性を学習する。	A
		犯罪の種類	個人的法益に対する罪、社会的法益に対する罪、国家的法益に対する罪の違いを理解する。	A
		刑罰	刑罰の意義と種類を理解する。	B
	刑事訴訟	捜査	捜査段階として、捜査機関による逮捕、証拠収集を理解する。	C
		起訴	起訴の意義を理解し、起訴・不起訴処分、起訴状の概要について理解する。	C
		公判	公判の一連の流れを理解する。	C
社会生活関係法	社会保障法	社会保障法の意義	社会保障という用語を理解し、日本の社会保障制度の概要を理解する。	C
	労働法	労働法の内容	労働法成立の歴史、わが国の労働法の体系を理解する。	C
		労働基本権に関する立法	労働基本権としての労働三権の内容、それに関する立法として労働三法の特徴を理解する。	C
	環境法	環境法の必要性	環境法が必要とされる背景を理解する。	C
		環境基本法	環境基本法の成立、概要を理解する。	C
		環境法の課題	人権の一つとして主張されている環境権について理解する。	C
	経済法	資本主義社会と経済法	経済法の意義を理解し、資本主義社会における経済法の必要性を学習する。	C



分類	項目	細目	理解すべき内容	区分	
		独占禁止法	独占禁止法の目的、その概要について学習する。	C	
	医療技術法	人工生殖の法律問題	人工授精について嫡出の推定の問題および代理母契約の問題を理解する。	C	
科学技術関係法	科学技術に関する法の体系と種類	科学技術振興全般を規定する法律	科学技術基本法、科学技術会議設置法の目的と概要を理解する。	C	
		知的所有権の成立と保護を図る法律	半導体集積回路の回路配置に関する法律、種苗法、不正競争防止法の目的と概要を理解する。	C	
		知的所有権の有効活用を支援する法律	大学等における技術に関する研究成果の民間事業者への移転の促進に関する法律	C	
	工業所有権法	工業所有権情報の取得	特許電子図書館の利用方法を理解する。	C	
		特許法	特許法の概要を理解し、特許要件、特許権侵害を事例を通して学習する。	C	
		実用新案法	実用新案法の概要を理解する。	C	
		意匠法	意匠の意義および意匠法の概要を理解する。	C	
		商標法	商標の意義および商標法の概要を理解する。	C	
	著作権法	著作権法の概要	著作権法の目的と概要を理解する。	C	
		著作権法上保護される権利	著作権、著作者人格権、著作隣接権、出版権の意義と内容を理解する。	C	
	国際法	国際法の意義と体系	国際法の意義	国際法の意義、国際法の成立、現代国際法の成立を理解する。	C
			国際法の体系	現代国際法の特徴および国際法の法源を理解する。	C
国際機構		国際機構の発生と国際連盟	国際機構の必要性、国際連盟の概要について理解する。	C	
		国際連合とその他の機関	国際連合の基本的性格およびその他の機関として経済社会理事会、国際司法裁判所、非政府組織の概要を理解する。	C	
平和と安全の維持		戦争	戦争法の歴史的展開および戦争の違法化の流れを理解する。	C	
		国連による強制措置と集団的自衛権	国連による国連安全保障理事会の行う非軍事的強制措置および軍事的強制措置ならびに集団的自衛権の意義を理解する。	C	

分類	項目	細目	理解すべき内容	区分
		国連の平和維持活動	国連の平和維持活動の概要を理解する。	C
民事訴訟 手続	民事裁判による紛争の解決	わが国の裁判制度	自力救済の禁止、刑事裁判と民事裁判との違い、裁判所の構成を理解する。	A
		民事裁判のしくみ	民事裁判の流れ、当事者主義の訴訟構造を理解する。	A
		裁判の関係者	裁判に関係する者として、裁判官、弁護士の役割を理解する。	B
		判決の機能	紛争解決、権利の実現、法の創造、政策形成などの判決の機能を理解する。	B
	裁判によらない紛争の解決	和解	裁判外の和解と裁判上の和解の意義を理解する。	C
		調停	民事調停、家事調停の概要を理解する。	C
		仲裁	仲裁の意義と概要を理解する。	C

## 法学Ⅱ（商取引法）の基礎・基本

### 1. 細目数

		分類	A	B	C	細目数計
5 学年 (2 単位)		商取引法総論	13	1	1	15
		商取引法各論	9	5	5	19
		細目数計	22	6	6	34

### 2. 分類とそれらの内容

1 / 3

分類	項目	細目	理解すべき内容	区分	
総論	商行為法の基礎	商人概念	商法の適用範囲を定めるための商人概念を理解することができる。	A	
		商行為の意義	絶対的商行為、営業的商行為、附属的商行為の意義を理解することができる。	A	
		売買契約の成立要件	一般的な売買契約の成立要件を理解することができる。	A	
		売買契約の効力	一般的な売買契約の効力として、特に、売買に特有の各種担保責任を理解することができる。	A	
	国内売買	国内売買の意義・形態	商人間の国内売買の意義、多様性、売買と他の取引形態との相違を理解することができる。	A	
		売買契約の成立	基本契約と個別の売買契約、諾否の通知義務、申し込みと承諾による意思表示の合致、当事者間の暫定的合意の効力、被申込者の物品保管義務を理解することができる。	A	
		商品の引渡	商品引渡の時期、方法、場所、危険負担および引渡の遅延、受領拒絶の問題について理解することができる。	A	
		商品の受領	目的物の検査および通知義務、買主の目的物保管および供託義務について理解できる。	A	
		代金の支払い	代金額、支払い時期、支払方法、不安の抗弁権について理解することができる。	A	
		代金債権担保手段	動産売買の先取特権、契約解除、所有権留保、運送中の物品の取戻権を理解することができる。	B	
		国際売買	国際売買の意義	国際売買の意義および特色を理解することができる。	A
	国際売買契約の成立	国際売買契約の法源、申込と承諾を理解することができる。	A		
	各種定型取引条件	各種定型取引条件の意義、特に、FOBおよびCIF条件について理解することができる	A		
	物品の契約条件への不適合についての買主の救済	契約条件に違反した取引における買主の救済手段を理解することができる。	A		
	工業施設建設契約	契約の特色、成立要件、標準契約書式等を理解することができる。	C		
	各論	消費者売買	消費者契約の意義	消費者契約の意義を理解することができる。	A
			消費者契約法	適用範囲、申込・承諾の意思表示の取消、無効となる消費者契約条項について理解することができる。	A

分類	項目	細目	理解すべき内容	区分
各論	販売信用取引	割賦販売	割賦販売の意義、規制、取引条件の開示について理解することができる。	A
		ローン提携販売	ローン提携販売の意義、契約内容についての規制について理解することができる。	A
		割賦あっせん販売	割賦あっせん販売の意義、契約内容に関する規制について理解することができる。	A
		前払い式特定取引	前払い式特定取引の意義、規制について理解することができる。	C
	特定商取引	訪問販売	訪問販売の意義、契約に関する規制、クーリング・オフについて理解することができる。	A
		電話勧誘販売	電話勧誘販売の意義、規制について理解することができる。	A
		通信販売	通信販売の意義、規制について理解することができる。	A
		特定継続的役務提供の規制	特定継続的役務提供の定義、開示の規制、クーリング・オフ、禁止行為について理解することができる。	C
	企業金融の形態	荷為替信用状取引	荷為替信用状の意義、開設をめぐる関係、信用状の種類、信用状取引当事者間の法律関係について理解することができる。	B
		ファイナンス・リース	ファイナンス・リースの意義、契約締結のプロセス、重要な契約条項について理解することができる。	B
	商品・サービスの流通に関する営業	仲立人	仲立人の意義、仲立契約の成立要件、仲立人の権利義務について理解することができる。	B
		問屋	問屋の意義、問屋と委託者の関係、問屋と相手方との関係について理解することができる。	B
		代理商	代理商の意義、代理商の契約条項、について理解することができる。	B
		運送	個品運送契約の意義、契約の成立、運送人の権利義務、船荷証券・航空運送状、荷受人の権利、傭船契約の意義、旅客運送の意義について理解することができる。	A
	倉庫営業	倉庫営業総説	倉庫営業者の意義、法源について理解することができる。	C
		倉庫寄託契約	契約の成立要件、営業者の権利義務について理解することができる。	C
倉荷証券		倉荷証券の意義、性質について理解することができる。	C	

# 経済学 の基礎・基本

## 1. 細目数

	分類	A	B	C	細目数計
5 学年 (2 単位)	経済理論	5	5	1	11
	経営学	1	0	2	3
	経済政策	2	1	0	3
細目数計		8	6	3	17

## 2. 分類とそれらの内容

1 / 1

分類	項目	細目	理解すべき内容	区分
経済理論	経済学を学ぶにあたって	社会のしくみ	経済学とは何か、社会のしくみについて理解できる	A
		社会の歴史的変遷	社会の歴史的変遷、20 世紀の生産力の到達点について理解できる	A
	商品と貨幣・価値と価格	商品と貨幣、価値と価格	スミス「見えざる手」、労働価値論と効用価値論について理解できる。	B
		地域通貨	地域通貨、NPO について理解できる。	C
	貨幣の資本への転化・剰余価値の生産・資本蓄積	剰余価値の生産と資本蓄積	労働力商品の価値、労働過程と価値増殖過程、協業、機械制大工業について理解できる。	B
		大量生産システム	大量生産、フォードシステム、トヨタシステム、セル生産方式、平均利潤法則について理解できる。	A
	再生産と恐慌・景気循環、経済格差	再生産と恐慌	貧困化、相対的過剰人口、剰余価値と利潤について理解できる。	A
		経済格差	サービス残業、ジニ係数、偽装請負、ワーキングプアについて理解できる。	B
	競争と独占・金融資本、	競争と独占・金融資本	生産の集積集中、平均利潤法則と独占利潤法則、植民地再分割、帝国主義戦争、世界恐慌、南北問題と経済援助について理解できる。	B
	国家・財政・地域経済	国家と財政	国家とは何か、租税と国債、消費税、財政赤字、政官財癒着、不正支出について理解できる。	A
地域経済		地域開発、地方財政、情報公開について理解できる。	B	
経営学	株式会社の経営・企業集団	株式会社経営	法人・会社と何か、株主総会について理解できる。	A
		企業会計	財務諸表、粉飾決算、インサイダー取引について理解できる。	C
		企業集団	連結決算、下請けについて理解できる。	C
経済政策	金融システムとグローバル化	カジノ資本主義・多国籍企業・グローバル化	規制緩和、金融ビッグバン、ポートフォリオ、土地・株式投機、不良債権、外国貿易と対外直接投資、産業空洞化、ヘッジファンド、デリバティブについて理解できる。	B
	情報化社会と経済	情報化社会の進展と経済	デファクトスタンダード、POS システム、知的財産権、オープンソースビジネスモデル、Web2.0 について理解できる。	A
	環境問題と経済	環境問題と経済	公害と公害輸出、地球環境破壊、公共事業、環境アセスメント、エコビジネス、リサイクル、再生可能エネルギーについて理解できる。	A

## 政治学 の基礎・基本

### 1. 細目数

		分類	A	B	C	細目数計
5 学年 (2 単位)	統治		13	4	1	18
	統治機関		8	3	1	12
	統治のプロセス		16	5	0	21
細目数計			37	12	2	51

### 2. 分類とそれらの内容

1 / 2

分類	項目	細目	理解すべき内容	区分
統治	政策の対立軸	日本の政策争点	現代日本政治における政策争点について理解できる。	A
		欧米の政策争点	欧米における政策争点と日本の争点を比較し、違いについて理解できる。	A
		冷戦後の変化	冷戦後の争点の変化を理解できる。	B
		新たな争点	冷戦後の社会の変化によって生まれた新たな政策争点について理解できる。	C
	政治と経済	市場の失敗	市場が失敗する状況について理解できる。	A
		政府の出動	市場の代わりに政府が出動する状況を理解できる。	A
		国家の役割	政府が出動する場合の国家の役割を理解できる。	B
		政府の失敗	政府主導が失敗する状況について理解できる。	A
	自由と自由主義	古典的自由主義	古典的自由主義の生まれた経緯について理解できる。	A
		福祉国家型自由主義	福祉国家型自由主義について理解できる。	A
		リバタリアリズム	リバタリアリズムの生まれた経緯、現状について理解できる。	B
	福祉国家	福祉国家とは	福祉国家の定義について理解できる。	A
		世界の福祉国家	どのような国が福祉国家と言えるのかを理解できる。	A
		福祉国家日本	福祉国家としての日本の現状について理解できる。	A
	安全保障問題	国際関係の特質	現代世界の国際関係について理解できる。	A
		勢力均衡とリベラリズム	安全保障に関する二つの理論について理解できる。	A
		冷戦後の変化	冷戦後の安全保障の変化について理解できる。	B
		日本の安全保障	日本の安全保障に関わる諸議論について理解できる。	A
	統治機関	議会	議会の比較	各国の議会の違いを理解できる。
日本の国会			日本の国会のしくみについて理解できる。	A
議会と政党			日本の国会と政党の関係について理解できる。	B
内閣		日本の内閣制度	日本の内閣制度のあり方について理解できる。	A
		首相と大統領	日本の首相と米国の大統領とのリーダーシップのあり方の違いについて理解できる。	B
		首相公選制	日本における首相公選制の議論について理解できる。	C
官僚制		官僚とは	官僚とは何か、またその歴史について理解できる。	A
		官僚の問題点	官僚制度から生じる問題点について理解できる。	A
		日本のNPM	現在進行中のNPMについて理解できる。	B
地方自治		地方自治のモデル	地方自治の4つのモデルについて理解できる。	A
		地方分権改革	日本の地方分権改革について理解できる。	A
	日本の中央地方関係	日本の中央地方関係の現状と問題点について理解できる。	A	

分類	項目	細目	理解すべき内容	区分
統治のプロセス	政策過程	意思決定	政策を決める際の意思決定のあり方を理解できる。	A
		課題設定	政策課題の設定の現実について理解できる。	A
		政策実施と評価	政策の実施とその評価方法について理解できる。	A
	デモクラシー	民主主義の歴史	民主主義の歴史について理解できる。	A
		自由民主主義の誕生	自由主義と民主主義との合体について理解できる。	B
		現代の民主主義	現代日本の民主主義の現状を理解できる。	A
	投票行動	投票行動	投票行動とは何かについて理解できる。	A
		無党派層	無党派層の増大の理由について理解できる。	A
		合理的市民像	市民が合理的に投票しているのかどうか理解できる。	B
	政治の心理	政治文化とは	選挙と政治文化の関係について理解できる。	A
		政治文化の変容	社会の変化と政治文化との関係について理解できる。	A
		価値観の変化とニュー・ポリティックス	非物質主義的価値観の出現について理解できる。	A
	世論とメディア	世論とは	世論とは何かについて理解できる。	A
		マスメディアの世論への影響	マスメディアが世論に与える影響について理解できる。	B
		合理的市民とマスメディア	マスメディアが投票行動に与える影響について理解できる。	B
	利益団体	利益団体とは	利益団体とは何かについて理解できる。	A
		日本の利益団体	日本の利益団体について理解できる。	A
		利益政治のパターン	利益団体と政治の関係について理解できる。	B
	政党	政党の機能と役割	政党の機能と役割について理解できる。	A
		政党組織	政党のしくみについて理解できる。	A
		政党システム	政治における政党システムについて理解できる。	A

社会概説Ⅲ の基礎・基本

1. 細目数

	分類	A	B	C	項目数計
4年生（2単位）	近代までの世界	0	0	1	1
	現代日本を理解するための 日本文化史	0	0	4	4
	明治・大正の日本における 政治と文化	7	0	0	7
	歴史研究入門	0	1	0	1
	昭和・平成	3	1	0	4
	現代の世界	$3 + \alpha$	0	0	$3 + \alpha$
	項目数計	$13 + \alpha$	2	5	$20 + \alpha$



## 2. 細目とそれらの内容

分類	項目	細目	理解すべき内容	区分
近代までの世界	近代以前の世界	近代までの歴史の概要	近代までの世界各地の歴史の概要を理解することができる。	C
現代日本を理解するための日本文化史	日本文化史	日本人のルーツ	日本人のルーツについて理解することができる。	C
		文字	日本の文字のルーツ、特徴について理解することができる。	C
		芸能	日本の芸能について概要を理解することができる。	C
		庶民の文化	日本の庶民文化についてその概要を理解する。	C
明治・大正の日本における政治と文化	幕末から明治にかけての日本と鹿児島	島津斉彬と集成館事業	島津斉彬の人物像と薩摩藩の事業としての集成館事業の概要を理解することができる。	A
		薩摩対幕府	薩摩と幕府の対立の背景・概要を理解することができる。	A
		坂元龍馬	坂元龍馬の人物像とその功績を理解することができる。	A
		西郷隆盛と明治政府	西郷隆盛の人物像と明治政府とのかかわりを理解することができる。	A
		大久保利通	大久保利通の人物像とその功績を理解することができる。	A
		天文館	天文館の歴史について、その概要を理解することができる。	A
		大正と大衆	大正時代の大衆文化について理解することができる。	A
歴史研究入門	歴史研究入門	郷土史研究の実例	郷土史研究の実例を通して、歴史研究の手法について理解することができる。	B

分類	項目	細目	理解すべき内容	区分
昭和から平成	大正から昭和にかけての日本と鹿児島	昭和初期の鹿児島島の歴史	昭和初期の鹿児島の様子を理解することができる。	B
		第二次世界大戦	第二次世界大戦の背景、日本のかかわりを理解することができる。	A
		終戦と日本	終戦後の日本社会の変容と発展を理解することができる。	A
		現代日本への道のり	終戦後の日本史の概要を理解することができる	A
現代の世界	現代の世界	第二次世界大戦後の世界の動向	第二次世界大戦後の世界について、その概要を理解することができる。	A
その他	今を観るための現代史	現代の世界	現在、世界で生じている諸問題を考え、解く上で必要な事項について理解する。	A
		時事問題	現代社会において重要な時事問題について理解することができる。	A×X
		テーマ史	講義進行時点での世界情勢を理解するために必要なテーマについて考え、自己の意見が述べられるようになる。	A×X



社会概説Ⅳ（5年）の基礎・基本

1. 細項目数

	分類	A	B	C	細目数計
4年性（2単位）	日常的概念に関する哲学的分析	4	1	1	6
	社会的正義に関する哲学的分析	2	2	1	5
細目数計		6	3	2	11

2. 分類とそれらの内容

分類	項目	細目	理解すべき内容	区分	
日常的概念に関する哲学的分析	人の本質は「脳」にあるのか？	古代哲学における唯物論と唯心論	中世神学やデカルト、ホッブズの思想を正しく理解する。	A	
		脳分割などの思考実験	シューメーカーやパーフィットなど、現代哲学思想を正しく理解する。	B	
	「こころ」とはどのようなものか？	言語哲学的分析	ヴィトゲンシュタインの思想について正しく理解する。	C	
		哲学的ゾンビ	クオリアなどの意義とそれがどのように「こころ」という概念を成立させているかを理解する。	A	
	道徳的に生きることは、その人にとって本当に「よいこと」なのか？	社会契約論的説明	ホッブズやゴティエなど、契約論的観点からの「よい」を理解する。	A	
		ニーチェ的分析	「よい」とはどのような経緯を経て成立した概念かを、ニーチェの思想をもとに深く考察する。	A	
	社会的正義に関する哲学的分析	環境問題における「問題」とは何が問題とされているのか？	自然の価値論	1960年代からの環境倫理の流れについて理解を深める。	B

		土地倫理	レオポルドの全体論的な環境思想を理解する。	B
	科学技術が人を不幸にする場合、技術の進歩を食い止めることができるのか？	科学技術の罪	ノーベルやアインシュタインなどの科学者がもたらした技術の功罪について理解を深める。	A
	法律上の「責任」とはどのようなものか？	法的責任論	A. スミスの法学理論を正しく理解する。	A
		道徳的運とは	B. ウィリアムズの <b>moral luck</b> について理解を深める。	C

## 体育の基礎基本

### 1. 細目数

	分類	A	B	C	細目数計
5年生 (男女) 1単位		0	0	0	0
	実技	106	49	13	168
	理論	5	0	0	5
細目数計		111	49	13	173

### 2. 分類とそれらの内容

分類	項目	細目	理解すべき内容	区分
実技 (選択制)	ソフトボール	基本練習	・スローイング、キャッチング、ピッチング ・トスバッティング ・ハーフバッティング	A A A
		基本技能（攻撃）	・ダブルスチール（無死以外で得点が接近し、打者のカウントが不利な場合や捕手の弱肩、2塁手、遊撃手の動作が緩慢なとき行う）:走者1・2塁の場合 :走者1・3塁の場合	B
			・エラーシステム（走者2塁の時、打者が3塁方向にバントすると見せかけ、3塁手を前につり出し2塁走者を盗塁させる攻撃法）:2塁から3塁への盗塁 :バントの構えからバットの戻し	B
			・フレスヒティング（バットを押し出すようにして1・2塁間から右翼方向へ打撃）	B
		基本技能（守備）	・狙った場所へのバントヒティング	B
			・ヒットエラー	A
			・バントエラー	A
			・ダブルスチールに対する守備 :走者1・2塁でのダブルスチールに対する守り方 :走者1・3塁でのダブルスチールに対する守り方	A A
			・エラーシステムに対する守備	B
			・挟撃プレイ	A
			・走者がある場合のチーム守備（実戦場面を想定して） :走者1塁で左翼にシングルヒットが打たれた場合 :走者1塁で右翼にシングルヒットが打たれた場合 :走者1塁で左中間にロングヒットが打たれた場合 :走者2塁で右中間にシングルヒットが打たれた場合	B B B B
			・投手のピッチアウト	A
			・ヒットランプレイに対する守備	A
			・作戦をたてゲームを行う	A
		ゲーム	・審判	A

分類	項目	細目	理解すべき内容	区分	
実技 (選択制)	卓球	基本練習	<ul style="list-style-type: none"> <li>・フォアハンドスピートロング対ショート</li> <li>・フォアハンドスピートロング対フォアハンドスピートロング</li> <li>・フォアハンドスピートロング対カット</li> <li>・バックハンドスピートロング対サービス</li> <li>・バックハンドスピートロング対ショート</li> <li>・バックハンドスピートロング対フォアハンドスピートロング</li> <li>・スマッシュ</li> <li>・サービスとレシーブ</li> </ul>	A A A A A A A A A A	
		戦型	<ul style="list-style-type: none"> <li>・カット主戦型の戦い方               <ul style="list-style-type: none"> <li>:ラケットとラバー</li> <li>:フォアカットの打ち方</li> <li>:サービスの打ち方</li> </ul> </li> <li>:ガリップの基本</li> <li>:バックカットの打ち方</li> <li>:レシーブの打ち方</li> </ul>	A	
		ゲーム	<ul style="list-style-type: none"> <li>・身につけたい6つのポイント               <ul style="list-style-type: none"> <li>守備範囲を広くする</li> <li>スマッシュに強くなる</li> <li>緩急に強くなる一発の攻撃力をつける</li> <li>ストップをチャンスボールに</li> <li>常に打つ体制で</li> </ul> </li> <li>・前陣攻守型の戦い方:ショート主戦型</li> <li>:ツッツキ主戦型</li> <li>・個々人のプレイの特徴を生かした戦い方ができる</li> <li>・シングルスとダブルス</li> <li>・審判</li> </ul>	A A A A	
		基本練習	<ul style="list-style-type: none"> <li>・規則的な動きの練習:ドローフット・ヘアピン・ロフ交互</li> <li>:スマッシュ・ドローフット・ロフ交互</li> <li>:ロフ・アクト・ヘアピン</li> <li>:スマッシュ・アクト・ヘアピン</li> <li>・不規則な動きの練習:オールロング:オールショート</li> <li>・ロングサービス、ショートサービスの練習</li> <li>・各種フットの正確な打ち分け               <ul style="list-style-type: none"> <li>:ハイクリアー</li> <li>:ドリブソフクリアー</li> <li>:ロフ</li> <li>:ウィップ</li> <li>:ドローフット</li> <li>:ドライブ</li> <li>:スマッシュ</li> <li>:フツツ</li> </ul> </li> </ul>	A B A A	
		ダブルスフォーメーションの理解と実践	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前後衛法（攻撃型）と横並び法（守備型）が最も基本的なもの</li> <li>・ローテーション法（2人とも右利きの場合時計の針の反対方向にローテイト）</li> <li>・インアクトアウト法（一定の方向と限らず適時前後衛法と横並び法とを転換する）</li> </ul>	A B C	
		ゲーム	<ul style="list-style-type: none"> <li>・シングルスとダブルス（特にダブルスにおいてはインアクトアウト法によるゲームができること）</li> </ul>	A	
		連携的技術	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ゴール前2人のスクリーンからシュート（相互の位置の占め方、動き出すタイミングの使い方）</li> <li>・3人のスクリーンレイからのシュートと守り</li> <li>・バックコートのリバウンドキャッチから2人または3人が広がってランニングパスからシュートと守り</li> <li>・4:3ゴール前で短いパス、長い逆をつくパスを使ったパスワークと守り（ゾーンディフェンスに対する攻め）</li> </ul>	A A A A	
		バスケットボール			

分類	項目	細目	理解すべき内容	区分	
実技 (選択制)	バスケットボール	集団的チームプレイ	・ハーフコート、または、バックコートから三線のパスワークからの攻めと2人での守り	A	
			・マンツーマンディフェンス（攻撃側の位置や動き替えに対し、ボール保持に対しても非ボール保持者に対しても、ボールを中心として必要な協力防御の態勢を作り、ドリブルインのカバーや、スクリーンに対するスイッチなどを利用し、シュートされてもリバウンドに入ってボールを奪う機会が作れる）	B	
			・対人防御に対する攻撃では、良いバランスをとってスクリーンやパス後の動きかえをして、正面やサイドからポストなどを利用して有効なシュートチャンスが作れる。また、シャッフルとかローリングディフェンスなどを参考にし、自チームのメンバーの特長を生かしたチームプレイを作れる。	B	
			・2-3ゾーン、3-2ゾーンなど特長を生かしてパスワークを阻み動きかえて隙を作らない防御ができ、防御の外側からシュートさせてリバウンドボールを奪える。また、防御のリバウンドボールをとってからは、安全な速いパスアウト、三線への展開、パスワークプレイとリターンパスプレイによるシュートで攻めが組み立てられるようになる。	A	
			・ゾーン防御への攻撃では、オバランスで、短いパス、長いパスを逆をついたりして回しかえ、パスワークプレイとフェイントドリブルなどで有効なシュートチャンスを作る。	B	
	ゲーム	・相手との関係場面に応じ、組織だった適切な連携プレイを使い、プレイヤーの特長も生かしたゲームができる	B		
		・審判	A		
		バレーボール	基本練習	パス :オーバーハンドパス :アンダーハンドパス	A
				トス :直上トス :ネット際からのトス	A
				:ネット際でジャンプトス :ネット際からのバクトス	B
:アタックエリア後方からのトス（二段トス）	B				
:ネットプレイからのトス	B				
ブロッキング :ブロッキングのタイミング :スパイクのコースを防ぐ	C				
:トスに対する読み :次の動作への連係	C				
:ブロッキングの構えとジャンプ :手の出し方	B				
:ブロッキングの基本的な動き	A				
サーブ :アンダーハンドサーブ	A				
:テニス式フロッターサーブ	A				
:オーバーハンドのフロッターサーブ	A				
:オーバーハンドのドライブサーブ	B				
:逆回転サーブ	C				
:ジャンピングサーブ	C				
スパイク:直上トスからのスパイク	A				
:オープントスのスパイク	A				
:コート後方からのトスのスパイク	B				
:速攻(クイックスパイク)	B				
・サーブレシーブフォーメーション	サーブレシーブの基本隊形:セッターが後衛の場合	A			
:セッターが前衛の場合	A				
サーブレシーブの応用隊形:クイックと時間差攻撃をしやすくするサーブレシーブフォーメーション	C				
:ジャンプサーブのサーブレシーブ	B				



分類	項目	細目	理解すべき内容	区分
実技 (選択制)	バレーボール	・アタックレシーブ フォーメーション	:サブレシーブの下手な選手をかばうフォーメーション、及びバックアタックをさせる選手をかばう場合	B
			:2人の上手な選手に多くサブレシーブをさせるフォーメーション	B
			アタックレシーブの基本隊形:レフト側からの攻撃に対して	A
			:センターからの攻撃に対して	A
			:ライト側からの攻撃に対して	A
			アタックレシーブの応用隊形:セッターが後衛で3人のアタッカーがAクイック、時間差、レフト平行トスをそれぞれ打ってくる時の守備隊形の変化	B
			:セッターが前衛の場合で、バックアタック	B
			:レフト、ライトに前衛3人でブロックする	B
			ブロックフォローフォーメーション	A
			ブロックフォローの基本隊形:レフト攻撃の場合のブロックフォロー	A
	:センター攻撃の場合のブロックフォロー	A		
	:ライト攻撃の場合のブロックフォロー	A		
	ブロックフォローの応用隊形:Aクイックからライト、またはレフトの攻撃に対するフォロー	C		
	:Aクイックとライト側の選手が時間差に入る場合のフォロー	C		
	基本的なチーム構成  ゲーム	一人セッターの場合:セッターが前衛の場合	A	
		:セッターが後衛の場合	B	
		2人セッターの場合:サブレシーブ0・6システムの場合	B	
		:サブレシーブ1・5システムの場合	B	
		アウト攻撃、二段攻撃、三段攻撃	A	
		メンバーの身体的特性やプレイの特徴を考え、戦術的な意図を持って高いレベルのゲームを目指す。	A	
審判		A		
ゲーム戦術		A		
ソフトテニス		基礎技能	・動きを多く取り入れ、フットワークをより軽快にし、ショットは力強く正確に打てるようになる。	A
			・前衛・後衛の役割を理解し、チームとしてまとまりのあるプレイ(コンビネーションプレイ)が出せるようになる	A
	・グラントストローク:動きを少なくして、単純な練習ではあるが、一本、一本を大切に打球		A	
	:攻撃的なシュートボールの練習、コースの打ち分け		A	
	:動きを多く入れてストロークの練習		A	
	:サービスレシーブからのグラントストロークの連続		A	
	・前衛練習:動きの少ないボレー、スマッシュ		A	
	:誘い込みのボレー		B	
	:フォア、バック、回り込みスマッシュ		A	
	:サービスレシーブからのボレー、スマッシュのバリエーション		A	
サービス :フラットサービス :スライスサービス	B			
試合形式での練習 ゲーム	・ロビングを効果的に使う	A		
	・前衛はモーションをかけて効果的なモーションを習得する	A		
	戦術的動きを激しくスピードにして	A		
	審判	A		

分類	項目	細目	理解すべき内容	区分	
実技 (選択制)	サッカー	基礎技術と複合練習	・パス:2人でのパス(横・斜め前のパス、横・縦のパス) :3人でのパス(ショート・ショート・ロングのパス、3人での直進的なパス)	A	
			・シュート:オープンからのセンターリングボールをシュート(キッカーもニア、ファーへ低く速い球、GKを越えるボールなど色々と実践を想定したボールを送る、点で合わせてゴールをねらう)	B	
		コンビネーションプレー	・オープンからの攻防:外側から攻撃側のオーバーンンパ-で2対1、3対2の攻め守り	A	
			・センターからの中央攻撃:中央からトップ(FW)とMFがコンビネ-をとっての攻め守りの練習、DFのストップ-とスウィーパー-がカバーリングの連携をとる	A	
		リスタートからの攻撃	・フリーキック	A	
		守備戦術の理解	・通常プレーでの守備:マンツーマンディフェンス :ゾーンディフェンス :コンビネーションディフェンス	A A B	
			・リスタートからの守備(セットプレー):フリーキック時の守備 :コーナーキック時の守備 :スローインの時の守備	B B B	
			・特別なゲーム戦術としての守備:プレスディフェンス :守備的戦術 :オフサイドトラップ	C B C	
		ゲーム	・チームのメンバーの特徴を考えて作戦を考え、チームスタイルを共通理解して高いレベルのゲームに挑戦する	B	
			・審判	A	
	ゴルフ	基本ルール	・エチケットとマナーの確認	・素振りにはまわりに十分に注意して行う ・人のショットは安全な位置で静かに見守る ・歩行はできるだけ速く ・ボール探しやプレーの遅延で他に迷惑をかけるようなら後続組をパス	A A A A
				・自分の実力を考えてプレイする	A
				・切り取った芝は元に戻しておく	A
				・ティグラウンドの範囲	A
				・空振りでも一打は一打	A
		スイングの基本の復習		・OBになりそうときは暫定球を打つ	A
				・ホールから遠い順にショットする	A
				・OBの判定は正確に行う	A
				・ドロップは肩の高さに腕を伸ばして行う	A
				・打てないと判断したらアンプレアブルを宣言	A
ゴルフトレーニング ショートホール(150ヤード以下)を作った実践		・クラブの握り方	A		
		・足の位置	A		
		・構え方	A		
		・クラブの上げ方	A		
		・バックスイングの頂点	A		
	・クラブの振り下ろし	A			
	・打球の瞬間	A			
	・クラブの振り抜き方	A			
	・スイングの終了	A			
	・素振りとストレッチは特に有効なトレーニング	A			
	・3人、4人ペアにより簡易ゴルフマッチを楽しむ	A			

分類	項目	細目	理解すべき内容	区分
実技 (選択制)	テニス	サービス	・コンチネンタル・グリップでのサービスの習熟（数多く練習）	A
			・スライス・サービス(カーブをかけるサービス):インパクトをフラットよりやや後ろにする	B
			・スピンサービス（強い回転の順回転をかけるサービス）	C
		フットワーク	・ 左右へのフットワーク	A
			・ 前後へのフットワーク	A
			・オープンとスクエアのフットワーク	A
		7°ロチショット	・「迷わずにネットダッシュ」が原則	A
			・スライスで相手コートに深く打つ	B
		攻撃戦略と防御	・サーブ & ボレー(サーブを打つと同時に、素早くネットに向かってダッシュし、相手のリターンをボレーで決める戦法)	A
			:リターンミスを引き出す、ファーストサーブを狙う	B
	:トスを20センチ前に上げ倒れ込むようにしてダッシュ	B		
	:ネット・ダッシュしたらスプリット・ステップ	B		
	:ファースト（最初の）・ボレーはコースより深さが大切	A		
	:足元のボールはセンターに遠いボールはストレートに	A		
	ストローク・ラリー:深さが大切。サービスラインと・スラインの中間に返す	B		
	:2倍の高さのネットを想像して高いボールを打つ	A		
	リカバーは想像できるリターン・コースのセンター			
	:クロスにクロスにひたすらクロスに	A		
	:ラリーのリズムを変えて相手のタイミングを狂わす	B		
	:弱く甘いコースのセカンド・サービスをスライスかフラットで打つ	B		
	:ライジングでたたくとネットに素早くつける	C		
	:スピードの遅い深いボールをバックサイドにリターン	B		
	・ボレーでポイントを奪う(雁行陣の後ろで守っているプレイヤーがラリーをしているボールを、ネット・プレイヤーが横取りしてボレーする):失敗をおそれることはない	C		
	:サーバーにサインを送り確実にボレーを成功させる	A		
	:ボレーの失敗をおそれるな、ボレーにでない方が罪が深い	A		
	ゲーム	色々な高いレベルの技術、戦術でゲームができるように挑戦する	A	
		審判	A	
理論	AED使用法	AED	・ AEDとは ・ AEDの必要性和校内及び学校外に設置してある場所の確認 ・ AEDの使用法	A A A
	生涯スポーツ	体を動かすとは	・ 体育学習で学んだ、体を動かすことの意義 ・ 自分の能力に応じたスポーツの楽しみ方	A A

## 比較文化 A の基礎・基本

### 1. 細目数

		分 類	A	B	C	細目数計
5 学年 (2 単位)	文化の定義		4	1	0	5
	異文化との接触		4	2	0	6
	異文化と社会		0	1	1	2
	文化を通して見た世界との自己とのつながり		2	5	4	11
細 目 数 計			10	9	5	24

### 2. 分類とそれらの内容

1 / 2

分 類	項 目	細 目	理解すべき内容	区分
文化の定義	文化とは	文化の定義	文化の定義について、文化人類学的及び心理学的視点から理解することができる。	A
		自文化とその習得・伝播	文化を通じた個人の社会化の過程について理解することができる。	A
	異文化とは	異文化の定義	異文化及びステレオタイプの定義について理解できる。	A
		自文化と異文化	自文化中心主義及び文化相対主義について理解できる。	A
		異文化への適応	異文化適応とカルチャーショックの定義とその過程について理解できる。	B
異文化との接触	国際的異文化との接触	国際的異文化体験の種類と背景	国際的異文化体験の背景や事情について、文化的・地理的・歴史的な観点から理解することができる。	A
		国際的異文化変容に伴う自己の変容	国際的異文化体験に伴う自己の価値観や対応の変容の過程について理解することができる。	A
		国際的異文化変容に伴う葛藤	国際的異文化体験に伴うカルチャーショック、リエントリーショック及び不適応について理解し考察することができる。	B
	国内的異文化との接触	国内的異文化体験の種類と背景	国内的異文化体験の背景や事情について、文化的・地理的・歴史的その他の区分を中心とした観点から理解することができる。	A
		国内的異文化変容に伴う自己の変容	国内的異文化体験に伴う自己の価値観や対応の変容の過程について理解することができる。	A
		国内的異文化変容に伴う葛藤	国内的異文化体験に伴うカルチャーショック、リエントリーショック及び不適応について理解し考察することができる。	B
異文化と社会	マイノリティとマジョリティ	マイノリティ・マジョリティの定義	マイノリティ、マジョリティ、ミドルトンマイノリティ、マーシャルパーソン、エスニシティ等の定義について理解できる。	B
		マイノリティ問題	異文化を持つ集団同士の関係と社会構造との関係について理解し、考察することができる。	C
文化を通して見た世界との自己とのつながり	グローバル化	グローバル化の定義	グローバル化の定義について、異文化理解の視点から理解することができる。	B

分類	項目	細目	理解すべき内容	区分
文化を通して見た世界との自己とのつながり	グローバル化	グローバル化の功罪	グローバル化が社会にもたらす功罪について、いくつかの実例をもとに理解し考察することができる。	B
		グローバル化への対応	グローバル化に対する、いくつかの立場や流派の理論について理解し、考察することができる。	C
	多文化	多文化の定義	多文化の定義について理解することができる。	A
		多文化社会	多文化が共起する社会の構造について理解することができる。	B
		多文化社会への対応	多文化社会への対応について考察することができる。	B
	「自由選択型社会」を生きる	「自由選択型社会」の定義	「自由選択型社会」の定義について理解し、現代社会をこの視点で捉えることができる。	B
		「自由選択型社会」の背景	「自由選択型社会」を形成している文化的及び社会的な背景について理解することができる。	C
		「自由選択型社会」の功罪	「自由選択型社会」が社会及び個人にもたらす功罪について考察し意見をまとめることができる。	C
		「自由選択型社会」への対応	「自由選択型社会」への対応について考察し意見をまとめることができる。	C
	異文化を生きる	異文化社会への対応	ミクロ的・マクロ的視点での異文化社会への対応について考察し意見をまとめることができる。	A

## 比較文化概論 B の基礎・基本

### 1. 細目数

分類	項目	A	B	C	細目数計
比較文化概論B	欧州の現状	2	0	0	2
	異文化の構造的理解	2	3	1	6
	欧州の戦後史	2	1	1	4
	日本との比較	3	3	0	6
細目数計		9	7	2	18

### 2. 項目とそれらの内容

分類	項目	細目	理解すべき内容	区分
比較文化概論 B	欧州の現状	多民族社会	他民族社会のありようを理解できる	A
			多民族社会としての欧州の状況を理解できる	A
	異文化の構造的理解	食文化	日欧の食文化の違いを理解できる	A
			その差異の根拠を構造的に理解できる	B
		学校制度	日欧の学校制度の違いを理解できる	A
			その差異の根拠を構造的に理解できる	B
		ディスカッション	日欧の議論の仕方の違いを理解できる	B
			その差異の根拠を構造的に理解できる	C
	欧州の戦後史	「旧東を懐かしむ」	映像資料を通して、Ostlogie（旧東を懐かしむ）の心情を理解できる	B
			映像資料を通して、冷戦構造の前後の歴史を理解できる	A
		全体主義批判	映像資料を通して、旧 DDR 地域の「全体主義」の現実を理解できる	A
			ディスカッションによって自分の考えを深める	C
	日本との比較	音楽・美術・モード	欧州の音楽の伝統を理解できる	B
			日本の音楽について説明できる	A
		労働市場	欧州の労働市場のありようを理解できる	B
			日本の労働市場について説明できる	A
		社会福祉	欧州の社会保障制度について概要を理解できる	B
			日本の社会福祉制度の概要を説明できる	A

